



特定非営利活動法人  
Chance For All

# 2019 年度 年次報告書

# 代表挨拶

怒りから愛へ  
ただひたすら、こどもたちや保護者と  
向き合ってきた五年間



「このクソみたいな社会を変えたい」  
私がCFAを設立した時にあったのは社  
会への強い憤りでした。「クソみたいな  
社会」「クソみたいな学童」そしてこ  
どもを金儲けの道具にしている「クソみ  
たいな大人たち」私の心はずっと怒り  
で満たされていました。

自分自身も共働き家庭で育ち、学童  
保育で放課後を過ごしてきました。そ  
の後、家庭の事情で生まれ育った家を  
捨てて住居を転々とする日々を送るこ  
とになった当時の自分にとって、家族  
や血縁は「絆」ではなく「鎖」。「こ  
どもたちが自分自身で鎖を断ち切れる力  
を身につけさせる」それこそが私の目  
指すものでした。

こどもたちが家庭に依存せずに成長  
できるように。自立して生活できるよ  
うに。こどもたちの楽しさや幸せより  
も、ただただ人生のスタートラインを  
公平にすることにこだわっていました。

今、創業期を思い返してみると、毎  
日楽しく通ってくれているこどもたち  
にずいぶん厳しく成長を求め、CFA  
を信じて任せてくれている保護者のみ  
なさんには「私たちはこどもたちのた  
めの学童であって、みなさんのための  
学童ではありません」と言い放ち、給  
与も払えず他の職場でアルバイトをし  
ながらついてきてくれている仲間たち  
どこまでも成果を求めてどなり散らす  
日々：いったい自分は一人でなにと戦っ  
ていたんだろうと思います。

そんな自分を変えてくれたのもこど  
もたちや保護者、一緒に働く仲間でし  
た。

一日一日を本当に一生懸命全力で生き  
ているこどもたち。みんな爆笑した  
り、本気でぶつかりあったり、ひとり  
ひとりの成長を目の当たりにしたり。  
何年も一緒に過ごす中でだんだんと「こ  
の子たちに幸せになってほしいな」と心  
から思える自分があることに気づきま  
した。

保護者のみなさんと共にこどもたち  
の成長について何時間も語り合ったり、  
夜遅くまで一緒にお酒を飲んだり、こ  
どもが課題を乗り越えたときには感動  
のあまり一緒に泣いたり。「コロナ禍でC  
FAが苦境に陥ったとき、誰よりも支  
援の手を差し伸べてくれたのも保護者  
のみなさんでした。サービスの受益者  
ではなく、こどもたちのための放課後  
を一緒に作っていく仲間としてあり続け  
ていてくれる保護者のみなさんがいな  
ければ、今のCFAはありません。

そして、どんな時もこどもたちのた  
めに力を尽くしてくれている仲間たち。  
教育行政に詳しいある方がCFAの全  
職員へのインタビューを通して「日本  
こどもと真剣に向き合っている組織」  
と誉めてくれました。日本一になれてい  
るかどうかはまだわかりませんが、こ  
どもたちのためならどこまでも愛情を  
注ぎ続けるこのクレイジーな仲間たち  
と、こどもたちと保護者のみなさんと  
一緒に、日本で一番こどもたちの幸せを  
追求する居場所をつくっていきたく  
と思います。

5周年ありがとう!

CFAKids  
5th Anniversary Party

## 事業報告 Result

### 学童保育事業

2019年度運営校舎	足立エリア6校舎、墨田エリア2校舎 (合計8校舎)
こどもの在籍人数	1年生～6年生(282名)
職員人数	25名
ボランティア	延べ約300名
運営日数	4月1日(月)～3月31日(火) (合計240日)

### 夏祭り

東京未来大学をお借りして開催。同大学の学生の皆さんにもご協力いただきました。参加者総勢1000名超、ボランティアスタッフ27名、地域のお店や団体の出店7店舗。

各ブースでの売り上げは、各校舎の子どもたちが管理する校舎予算として使用させていただきます。

### サマーキャンプ

千葉県奥養老キャンプ場にて、1年生から6年生まで全学年・全校舎を対象に、2泊3日で実施。遊びを考えた、予算の中で子どもたちが食事内容を決めたり子どもたちが作るキャンプです。大きなリュックを背負って親元から離れての活動は、子どもたちをひとまわり大きく成長させてくれます。

### スポーツ大会

CFAKidsの全校舎が一堂にそろう、スポーツで競い合う大会を開催。子どもたちから募集した種目、逃走中とGドッチボールを行いました。子どもたちの笑顔と白熱する応援が飛び交いました。

### 卒業式

今年度の卒業生にフェローオーケストラさんご協力のもと、生演奏のプレゼントを準備。子どもたちが楽器に触れ合う機会も設けていただきました。

残念ながらコロナの影響で卒業式は延期となりましたが、改めてみんなでお祝いでできればと思います。

### 貧困対策事業

#### 奨学制度をスタート

金銭的理由でCFAに通えない子どもをなくすため、就学援助を受けている家庭に保育料金免除で通える制度を開始しました。

個人寄付会員の方々、企業からの賛同寄付により、10家庭を対象とし、元気に通ってくれています。



### 地域連携事業

#### 梅島キッズ祭り

地域でのお祭りが少なくなる中、地域のお祭りを復活させたい!と想いをもった方が主催するお祭りへ準備から参加しました。当日はCFAの子どもたちが考えたブースも出店。大盛況でした。

#### 曳舟・高木神社大祭

担い手の減少が問題となる地域のお祭り。担い手として子どもたちと参加しました。

### 教育研究事業

#### SEEK EDUCATION

「今、自分たちが学びたいこと」にゲストを招いて講座を開催しています。遊びや教育などの内容で開催しました。

#### 子育て勉強会

虐待、いじめなど子育てに関する勉強会を、保護者の方や職員と一緒に、ゲストを招いて学びました。

### 館山事業

#### 1ヶ月キャンプ初開催

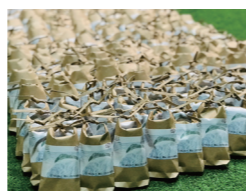
3年前から千葉県館山市で1週間の滞在型プログラムを実施。地元の方々と密接に交流しながら過ごすプログラムです。今年度は25泊の長期キャンプも同時開催しました。

#### 台風基金

今年で6年目となる子どもたちとの米作り。そんな館山が台風15号の深刻な被害を受けました。子どもたちやご家庭から寄付や支援物資を募り、復興支援を実施。自分たちのお小遣いから募金してくれた子どもたちも大勢いました。

#### お米のネーミング

館山で実ったお米のネーミングを募りました。館山の復興を願う名前もある中、選ばれたお米は1年生が考えた『マイスター』。復興を願う一番星として、食卓の上で輝いてもらえればと思います。



### 「ありがとう」「これからもよろしくね」を伝えたい

#### ◆CFAKids 5th Anniversary Party

2020年2月にCFAKidsの5周年記念パーティーが開催されました。もともとこのパーティーは「CFAKidsが5周年を迎える節目をみんなで祝いたい!」と現場で働く職員から発案されたことがきっかけで開催することとなりました。この5年間で子どもたちだけでなく、保護者のみなさんや地域の方々、共感/支援して下さる方々が次第に増えてきました。

当日は約700名もの皆様にご参加いただき、創業メンバーが出会った場所であるキッズニア東京を会場に、子どももおとなも笑顔がたくさん弾ける一日となりました。

#### ◆開催前から大はしゃぎ。子どもたちにとって特別な時間に

パーティーの一週間以上前から子どもたちはワクワク。当日に向けてダンスを練習したり、持ち物を何度も確認したり。日めくりカレンダーを作っている子どもたちもいました。そして、当日。子どもたちはもちろん学校がある日です。路線バスを貸し切り、CFAの子どもたちみんなそろっての大移動。放課後の時間、CFAのみんなで東京のど真ん中を移動する光景に子どもたちは大興奮。窓に張り付いて外の様子を見つめていました。

#### ◆パーティーの様子

CFAFamilyで、毎月探求ゲームを届けてくれている株式会社tanQの森本佑紀さん(通称モリソン)が式典の司会として登場し、会場を盛り上げてくださいました。記念Tシャツの授賞式では、保護者も子どもも参加して行ったデザインコンペで見事最多獲得票を集めたお父さんへの表彰。そして、一番獲得数が多かった子どもへは、記念に本人がデザインしたイラストのデザイン缶バッジを作成しました。この缶バッジは当日ご来場いただいた皆様方にもプレゼントさせていただきました。また子どもたちの手作り御神輿の登場があったり、サンパやキッズニアダンスを踊りました。校舎では大騒ぎの子どもたちも、700名を越す来場者に緊張気味だったこともほほえましい光景でした。式典のあとには、おとな向けにNPO法人ケア・センターやわらぎ代表理事の石川治江さんと西岡塾塾長の西岡郁夫さんとのトークセッション、キッズニアの中を巡るツアーなども開催させていただきました。当日の様子は動画にもなっておりますので、もしよろしければそちらもご覧いただけますと幸いです。

当日は温かい応援のお声かけを頂きとても胸が熱くなりました。また、104万9千円の寄付金も頂戴致しました。日頃よりのご支援、改めて御礼申し上げます。



▲当日の様子(動画)はこちら

# CFA を取り巻く人々の声 *People around CFA*

CFA では子どもたち、保護者のみなさん、職員が協力しあって日々の生活を作り上げています。

## CFAKids の子どもたちの声

### 小学4年生

#### — CFA ってどんなところ？

学校の友達以外と出会えるところ。公園遊びが楽しい。特にドロケイで遊んでいるとき！学校では絶対にドロケイはやらない。同じ学年は、足の速さとか一緒だし、CFA だと、見た目と違う子、例えば背が小さいなと思っていても足が速いかあって面白い！年下の子は特に、年齢も違うから面白い。足が速い人と遅い人でチーム組んだり、組み合わせを変えたり調整してチームも作れるもの楽しい。

#### — CFA に入ってよかったなと思うことは？

知らない人に会えたこと。同じ学年でも他の学校の人と出会えた。思い出に残っていることは、夏休みの手づくり昼ごはんで‘うどんづくり’をしたこと。予定より1時間以上も時間がかかって、完成したうどんもなかなかガチガチだった。大変だったけれど、おいしかったし「やり切った！」って感じだった。

周年パーティーでキッザニアに行った時に、CFA のみんなでバスの貸切をして都内を車で走ったこと。秋葉原とか通れたことが嬉しかった。

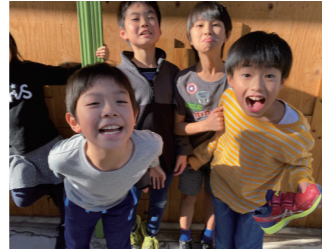
#### — こどもの日ってどんな日？

僕が思うこどもの日っていうのは、時間にしばられずに自由に過ごす日のこと。こどもの日にすることは、とりあえずやることをやってからあとは楽しむ！先に楽しんでしまうと楽しい気持ちが増して行って、宿題とかやらなきゃいけないことをやりたくなくなってしまう。先に取り組むことで、あとでたくさん思う存分楽しめる。

勉強は家ではやる気が出なくて集中できない。CFA だから取り組める。CFA だと宿題のめんどくささを分かっている、苦労を共にする友達がいることが強いんだ。

#### — CFA がどんな場所になったらいい？

卒業しても来られる場所。でも卒業してからも来るかと言うと、家から30分かかかるから来ないかも(笑)



### 小学5年生

#### — CFA ってどんなところ？

みんながとっても楽しめる場所！他の学童だと先生と子どもが分かれているけど、CFA は一緒って感じがする。みんなで遊んでいるときが楽しいし、自分たちで考えるキャンプやスポーツ大会も楽しい！みんなの存在がちゃんとあるって感じがする。

#### — CFA に入って良かったなと思うことは？

他の場所だと自分の個性やいいところをなかなか出せないけど、CFA は自分を出すことができる場所。素の自分を出せるのが良いと思う。他の学童だと色々制限があって何もできないけれど、CFA はいろんな人と交流ができて楽しい！あと、おやつが美味しい！！

CFA は今のままでいてほしいって思う。進化することはいいこともあると思うけど、悪いこともあると思う。子どもを甘やかすすぎちゃダメ！子どもにもある程度不便をかけていたほうが良いと思う。

### 小学6年生

#### — CFA ってどんなところ？

レゴをすることが楽しい！でも、本当のこと言うとリーダーシップがとれるところ。6年生になって楽しみに感じるようになった。学校で同じ学年同士だと、そういう機会ないから。

今は卒業に向けて、自分の後継人を育てることも楽しい。育てがいがありそうな子や、仕掛けてみたいなと思う子がいる。下級生の世話をしなきゃっていう新たな感情が生まれたと思う。CFA は僕が唯一、胸を張れる場所。

## 保護者(2年生男子保護者)の声



1. CFA に入ろうと思ったきっかけ
2. CFA に入って印象的だったこと
3. 今後成長してほしい力
4. 最後に一言

### 1.

以前ボランティアで別の学童に参加した際、先生たちは本当に忙しそうで、子どもたちと接するのは地域のボランティアのスタッフという状況でした。自分の子どもを預けることに不安を感じていたところ、信頼する友人からCFAを紹介されました。

CFA の入会説明会に参加したとき、本当に学童で働くことが好きで働いている人がいる場所だなと感じました。説明会で記憶に残っていることは、子どもたちの残食率を考え、手作りの昼食を出すことを大切に考えていること。それから先生全員を正規雇用していること。一時的に働く場所ではなく、働き続けられることを大切に考えている環境なのだと感じました。

### 3.

チームワークです！今は“遊び”と“ここまでやったらダメなんだよ”の境目がまだわからない段階です。家族ではなかなか教えることはできないので、同年代の子との関係で学んでいければと思います。

CFA に入って子どもがとっても喜んでいてのは、戦いごっこをさせてもらえることでした。保育園や学校では「ケンカにつながって危ないから」と禁止されていた遊びだったのですが、CFA は禁止していません。かといって、放任でやらせているわけでもなく、戦いのルールを自分たちで話し合い、どうやったらケンカにならずにできるかを考えてくれています。壁には子どもたちが考えた『戦いごっこのルール』が貼ってあるのですが、戦う前にみんなで唱和してから戦いに挑んでいるようです。「自分たちでルールつくって戦っていいんだって！」って嬉しそうに言っていました。

戦いごっこをして、またケンカをして、その度に話し合いが行われて新しくルールがつけ加えられているようです。トラブルが起きることもあるけれど、友達との関係性の中で成長していきもらえればと思います。

### 2.

息子はわんぱくでケンカっぽく、感情的になって手を出してしまうこともあります。先生方にはお世話になっていて、頭が上がりません。

そんな息子はCFAで実施している対立や仲裁について学ぶプログラムが好きで、いつも一番前で目をキラキラさせて話を聞いているようです。どんな話だったか家に帰ってくると教えてくれます。

相手の気持ちを考えられず、感情的になってケンカをしていることがまだまだあります。ですので、プログラム内容の実践まではまだできてはいません。しかし、人との関係性について自分なりにわかろうとしている姿勢は、以前と変わったかなと思います。

### 4.

CFA に子どもを通わせて一番良かったのは「CFA では子どもが選択権を持っていること」です。遊びに行く公園も、カレーの会の具材も、夏祭りでお金のお金の使い方も先生方が「こうするよ」と決めた方が、揉め事が起こらず楽だと思います。それを分かった上で子どもたちに選択権を与えてくれています。

選択権を与えることで、皆が同じ意見にならない、意見が対立して険悪にもなる。子どもたちが反対側の意見を聞いてなるほどと思うこともあるし、自分の意見も受け入れてもらえることもある。そうして、子どもたちなりに「合意」する方法を導きだしていく。そんな大人からすると面倒に思えることをCFAの先生はちゃんと付き合ってください。

だから子どもたちは、自分が何をしたいか、相手はどう思っているのかを知り、そして意見が分かれた時の解決方法を見つけられるようになるんだなと思いました。与えられたカリキュラムをこなすだけでは得られない体験を、子どもはCFAでできています。先生方の労力に改めて感謝の気持ちを伝えたいです。

## 職員の声



【取材・撮影】吉中智哉

### 戸田 明絵

綾瀬エリアマネージャー

宝仙学園短期大学 保育学科卒業後、2015年にCFAに入職。西新井校の責任者を3年間務め、2020年4月より綾瀬校へ移動。

## 職員のとある1日 *One day of staff*

9:00  
出勤



通常は午後から出勤ですが、研修がある時はいつもより早めに家を出ます。夏休みなど長期休暇中は7時半から運営なので、朝から子どもを迎える準備をします。

10:00  
合同研修



本部にて合同研修。この日は「地域と学童」がテーマ。保育や教育の勉強会だけではなく、ワークショップや、映像を見て意見交換をすることもあります。

13:30  
入室準備



本部から各校舎へ移動して、子ども達が帰ってくる前に入室の準備をします。室内の消毒やおやつ準備など、準備は多岐に渡ります。

14:30  
入室



子どもたちが学校から帰ってきたら、一人ひとりの顔を見てあいさつします。その際、いつもと違った様子がないか、顔色や体調にも気を配ります。

15:30  
集中の時間



おやつを食べ終わったら「集中の時間」です。子どもたちは真剣な表情でそれぞれの課題に取り組めます。

16:30  
外遊び



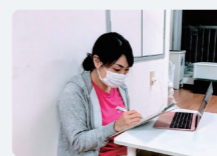
晴れている日は外で元気に遊びます。CFAには「あそびこそさいこうのまなび」という言葉があり、遊びの中で子どもたちは多くのことを学びます。

20:30  
親睦会



職員同士の交流も盛んなので、仕事終わりに食事に行くことも。プライベートの話もしつつ、つつい子どもたちや教育についての熱い話になることが多いです。コロナ禍でなかなかお店に行けない最近、ZOOM飲みを楽しんでいる職員もいます。

19:30  
終礼



子どもたちが帰ったあとは、その日のふりかえりと同じ校舎の先生とします。事故やトラブルの報告以外にも、子どもたちの成長や保育の方針も共有します。

18:00  
お迎え



夕方になると保護者がお迎えに来ます。学童からの帰り道、お父さんお母さんにたくさん褒められるように、お迎えの際には子どもたちのいいところやエピソードを伝え、「褒めの種」をまきます。

「CFAに入った経緯を教えてください」ともともと代表・副代表と同じ職場で働いていた時期があり、その後、私は別の学童で働いていました。2015年にCFA西新井校ができた時に誘ってもらい、入職しました。当時、職員は5名しかいませんでした。入職の決めては何でしたか？

良い機会だなと思いました。前の職場が、ことごとく対してあまり深入りしないスタンスだったので、CFAに入ったこと子どものために力を尽くせるのかなと思いました。もともとことごとく向き合いたいと思っていたので、実際に入職してみてもいいかなと思いました。

元々いた学童はマニュアルがかなり細かく、そのためことごとく向かう時間がありませんでした。CFAでは子どもたちのために「ならない」が判断指針としてあるので、良い意味で割り切りが良かったんです。CFAに入ってから自身の変化はありましたか？思い出深いエピソードはありますか？

現場のことは私が一番分かっていると思ってたので、反発する気持ちもありました。しかし、納得する部分もあり、少しずつ自分から接し方を変えてみることにしました。自分が変化したことで、周りの子どもも変わっていき、その子自身もよく落ちついて生活できるようになりました。ことごとく関わりで一番手ごたえがあった出来事だと思っています。

「子どもの見方が色々できると気付きました。ある校舎で周りとうまく馴染めないこともあって、私は「周りと同じことができるようにしてあげたい」と思っていました。そこで中山代表に相談したところ、「周りの子どもたちが変わる必要がある」「自分(戸田)自身の接し方も変える必要がある」と言われました。

「職員としてCFAの良いところはどこだと思いますか？」

ことごとくを第一に考えられるところだと思います。一人ひとりのことについて、大勢の職員で話しあったり、意見を交わしたりします。普通の学童では一人のことごとくに対して、ことごとくの時間や労力を割くことはできないです。今はCFAの規模も大きくなってきていますが、それでもそのスタンスを変えないのはすごい良いと思っています。ずっと続けていきたいと思います。

「それは現場レベルで実行していくのは本当に難しいことだと思います。予算や時間の問題でできない所も多いですが、なぜCFAではやっていただけるのだと思いますか？」

職員含め、みんなが他の人の意見を聞くこととしていっているのが大きいと思います。保育業界で長年働いている人も多くいますが、そうすると自分のやり方や考え方を考えられなくなり、年数が長い人ほど発言が強くなってしまいます。そうすると、ことごとくのことを一番に考えるより、影響力の強い人が働きやすい環境になってしまいます。

CFAは気軽に相談できる環境があったり、何より代表がことごとくのことを誰よりも考えているので「ことごとくのことを一番に考えられる環境」が保たれているのだと思います。

「現在職員は20名以上いますが、職員が増えてきて感じていることはありますか？」

保育業界を経験したことがないメンバーが入ったり、新卒のメンバーもいることで、いろいろな取り組みやつながりが生まれるようになってきました。一方、大きくなったことで、マニュアルやルールが増えているのも事実です。安全のために仕方がないことですが、CFAの良いところは残してほしいと思っています。

「残したい良いところは？」

ことごとくのことを一番に考えることは絶対に忘れてほしくないです。それは組織としてもそうですが、私も含めて一人一人の先生も忘れてはならないことだと思います。

「相談できる環境」とおっしゃってましたが、どんな環境ですか？」

校舎のキャブテンやエリアマネージャーといった直接関係ある人に相談

「ご自身が先輩の立場として、相談しやすい環境はできていると思いますか？」

自分ができることは、CFAができてから今までの話をすること、伝えることだと思っています。新卒の職員と組んで校舎運営をしたりしますが、CFAで今までやってきたことの理由や背景の話をすると喜んでくれます。組織として既に成り立っているものが多いからこそ、色々なルールや決まり事の経緯を説明するのは大事なんだと感じています。

それから、自分自身がお局化しないように、先輩達の前ではできるだけネガティブな事を言わないように、何か提案があったら「とりあえずやってみよう」と未来の話をすることで、気を付けています。(笑)

「最後にこれを読んでいる人へメッセージをお願いします。」

CFAは自分達だけではどうにもならない部分がたくさんあり、それを色々な人が支えてくれることで成り立っています。ことごとくもそれは分かっていますし、私たちもそれを伝えていきます。私たちは皆でことごとくを育てています。保護者・CFA・学校だけではないで、地域のみならず、支援してくださっているみなさん、CFAに関わりのある人、これを読んでいる全ての人のおかげで、今日も子どもたちと全力で向き合えることが出来ます。とても助かっています、ありがとうございます！これからもよろしくお願ひします！

## 理事・監事紹介 Introduction of Directors

創設以来、創業メンバーのみが理事でしたが、ガバナンスの強化、よりオープンな組織を目指して外部理事を2名、外部監事を1名、CFAから新たな理事を1名選任しました。



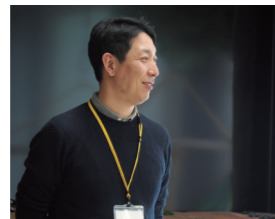
新  
外部理事  
石川 治江

NPO法人ケア・センターやわらぎ 理事長  
社会福祉法人にじんの会 理事長  
立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科特任教授 等歴任

「勇魚」と書いて「いさな」と読む、なんと珍しい。魚や？漁師？魚市場出身？どうしても魚関係の家系かしら？と思うので、中山勇魚さんに聞いてみようと思いつきながら聞いていないような気がする、ので今のところよくわからない。

昨年、設立5周年の記念パーティーをするので「キッズニア」に来てほしいと告げられとにか行行った。ごった返す子どもと大人がすごいエネルギーを放っていた。子ども達も先生方も参加者も全員がなんか熱い。理事を頼まれた時からそりや相当覚悟はしていましたよ、まったくこの覚悟を裏切らない「チャンスフォーオール」の熱さと本物感が私の脳みそに突き刺さった。

金もうけだけの組織ではない強靱で、深く、すがすがしく、気持ちよく、良い笑顔これらのことがきつといい未来を創る。新米理事ですがどうぞよろしく申し上げます。



新  
外部理事  
青木 智宏

公益財団ベネッセこども基金、オリジナル子育て主催。ベネッセコーポレーションにて放課後教室・学童事業を立ち上げ。全国の公立学校に関わる中で、学校とマッチしない子どもたちと多く出会う。2018年度より公益財団法人ベネッセこども基金事務局。子どもの貧困や重い病気の子、発達支援など障害を抱える子の支援に携わる。プライベートでは複数のNPOや財団とともに、既存の学校にあわないう子どもたちやその家族・支援者とともに、多様な学びの選択肢を提供する活動やイベントに取り組んでいる。イチローとCoCo 壱が好き。

このたびCFA理事に就任いたしました青木智宏と申します。長年、リスペクトしてきたCFAに関わることができて大変光栄に感じています。子どもたちを真ん中に、評価をせず、成長を強制せず、でも成長を見逃さない。言うはたやすく、行方がこれほど難しいことはありません。私なりの経験を活かして、CFAの益々の発展に力を尽くして参りたいと存じます。今後とも引き続き、ご指導ご厚情を賜りますようお願い申し上げます。



新  
理事 運営部長  
吉田 理宏

1964(昭和39)年3月9日、北海道札幌市に生まれる現在56歳。人材開発分野のコンサルタントとして30年を超えるキャリアを持つ。企業や組織の成長シーンにおける「採用」「育成」「チームづくり」のプロフェッショナル。ワタミ(外食チェーン)キッズニア(テーマパーク)をはじめ、数社のコンサルティング実績を持つ。

はじめまして、吉田理宏(よしだみちひろ)と申します。日本の未来を心配しています。でも悲観はしていません。CFAは、「日本の未来にとって不可欠な存在である」と考えています。そのCFAが期待される役割を果たすためには、「より良くなっていく、だんだん良くなってゆく」ことが必要です(今のままじゃダメだってことです)。そのことに役立てるのであれば、何でもやりたいと思っています。よろしくお願ひいたします。



新  
監事  
安井 飛鳥

弁護士法人ソーシャルワーカーズ 副代表  
弁護士・ソーシャルワーカー(社会福祉士・精神保健福祉士)。元学童保育指導員。法律、福祉双方の専門性を活かして様々な子どもや家庭の支援や福祉施設、福祉団体の中間支援活動に従事している。現在は児童相談所や児童養護施設退所者等のアフターケア事業所の相談員を兼務。様々な困難を抱えた子ども・若者達と日々試行錯誤して関わりながら、誰もが生きやすい社会を築く実践を行っている。アニメコンテンツにも造詣が深くプライベートではアニソンDJ活動を行っている。

この度、CFA監事に就任いたしました。日々、専門職として困難を抱える子ども達と関わっていますが、その度に子どもの当たり前な生活を保障していくことの重要性を感じます。CFAでは、日々、試行錯誤しながら子ども達の安心安全の生活を保障してその権利保障を実現していくために様々な実践が行われています。そうしたCFAの実践の適正さの根拠、原動力となるよう監事としての職務を務めて参りたいと存じます。



代表理事  
中山 勇魚

早稲田大学教育学部卒業。学生時代から学童保育の現場でボランティア、アルバイトを行い放課後の可能性に着目。一方で十分とはいえない難い放課後の状況を変えたいと決意する。卒業後は認可保育園や児童館を運営する企業やIT企業で修行を積み、2014年に足立区梅島にて民間の学童保育施設CFAKidsを立ち上げる。

CFAを立ち上げた初年度、職員4人にこどももたった4人。廃墟となっていた部屋をDIYでリフォームした校舎で始めました。今では300家庭以上のこどもたちが毎日通っています。規模が大きくなるに従って社会的責任も大きくなっており、より開かれた組織にするために今回CFAでは初めて外部理事の方々を受け入れることとなりました。各界のプロフェッショナルのみなさんのお力を借りながら、さらに羽ばたいていける年にしたいと思っています。



理事 事務局長  
藤場 恵見

大学卒業後にこども向けテーマパークにてマネージャーを務める。その後、民間の学童保育施設にて勤務し、2014年に代表の中山とCFAKidsを立ち上げる。

CFA一年目から通っていた子たちが中学生となりました。これからさらに多くの子がCFAKidsを卒業していきます。彼らが将来壁にぶち当たった時にいる人々の力を借りながら乗り越えていけるよう、放課後の時間にぐんぐん成長してほしいと思っています。また、小学生の今だからこそ、純粋に思いっきり遊べる機会をつくっていききたいです。多くのこどもたちが自分のチャンスをつかめるよう、影ながら支えていききたいと思っています。

## 支援者紹介 Introduction of Supporters

CFAは、多くの方の支援によって支えられています。

マンスリー会員を始めとした個人のみなさまの寄附。企業からの寄附や協働プログラム。

地域の団体との連携など、社会のみなんでこどもたちの成長や、保護者のみなさんの子育てを応援していきたいと考えています。



ソニー株式会社  
サステナビリティ推進部 CSRグループ  
シニアマネージャー 岡田 康宏

### 応援メッセージ

Chance For All様が大切にされている生まれ育った家庭や環境で左右されない社会を目指すという方針に基づく学童運営や困窮世帯を対象とした奨学金制度などの取り組みに深く共感し、今年度より本格的に連携させていただいております。ソニーでは教育格差縮小に向けた取り組み「感動体験プログラム」を展開しておりますが、そのプログラムの一環としてCFAKidsの学童において、プログラミング体験などのワークショップを実施しています。これからも子ども/放課後に関する幅広い知見とノウハウを有しておられるChance For All様とのパートナーシップのもと、次世代を担う子どもたちをサポートし、創造性や好奇心を育む機会を提供して参りたいと思います。



NPO法人CRファクトリー  
副理事長 五井 潤利明

### 応援メッセージ

僕がCFAのことを素敵だなーと感じているのは、特にこの3つの点です！  
① 理念・信念がブレない強さがあること  
② みんなで対話して一緒に考え続けること  
③ 常に子どもをまんまかに活動していること  
組織・経営においても、学童の現場でも、それは変わらない軸であるように思います。そんなCFAを、仲間として応援しています！何か出番があったらいつでも言ってね！



すみだ青空市ヤッチャバ事務局  
細田 侑

### 応援メッセージ

毎週土曜日に東武曳舟駅まで野菜の市場(ヤッチャバ)をやっています。一次産業がない墨田区で“食べる人”と“つくる人”の関係性づくりの場をこれまで10年やってきました。今後はCFAさんともっと連携して、こどもたちに食に興味をもってもらえるようなコラボしていきたいと思っています。CFAのこどもたちとまた面白いことができる日が楽しみです。

# こどもの権利に関する 取り組み 4 選 *4 initiatives for children's rights*

## こどもの権利について

日本は 2019 年度にこどもの権利条約批准 30 周年を迎えましたが、未だにこどもの権利が本当の意味で大切にされているとは言い難い状況です。このコラムでは CFA のこどもの権利に関する取り組みをご紹介します。

CFA では特に子どもたちの「参加する権利」（意思を表明する権利）を大切にしています。

## 👛 こども経理部の取り組み

自分たちの校舎で使いたい物、買いたい物を大人が管理して購入するのではなく、予算の中で子ども自身は何を買うかを決め、管理する取り組みです。

任期は 3 ヶ月。子どもたちの中からこども経理部に立候補したいメンバーを募ります。『自分がほしい物』を好きに買うのではなく、『みんながほしい物』のリクエストを集め、何をかうかを話し合っています。

おもちゃを買おうと話していた校舎で、「僕はいらないけど、女の子のためにリカちゃん人形を買ってあげた方がいいと思う」と提案してあげたり、海外から 3 ヶ月のインターンに来た学生さんに最後に日本のお土産を買ったこともあり。夏休みなど CFA で過ごす時間が長い日は、みんなで一緒に買い物に行ったりすることもあります。みんなのお金を背負ってお店に向かう姿は頼もしく感じます。



### ～経理部の 3 つの約束～

- ・おかねはみんながしあわせになるためにつかう
- ・つかいみちをきちんときろくにのこす
- ・ふやすこともかんがえる

## ⚖️ こども弁護士

普段 CFAkids での生活の中で、子どもたちの相談や悩みを聞くことがあります。しかし、いつも一緒にいる大人だからこそ言えないこともあります。自分だけでは解決できないこと、困っていること、悩んでいること、ちょっと話してみたいと思うこと。

そんなこどもの話を聞いて受け止めてくれるのがこども弁護士です。普段いる職員とはちょっと違う角度から、こどもと関わり話のできる関係をつくっていきたくて考えています。大きなトラブルが起こってからの解決ではなく、相談しやすい関係を増やしていくことで、学童を卒業した後も「困っている時に助けてと言え」「大人を信頼できる」力を身につけて欲しいと思います。

定期的に訪問してくれている弁護士先生ですが、子どもたちは「一緒に遊ぼうよ!」と屈託なく誘っており、職員が少しヒヤッとすることもあります (笑)



## 🔥 キャンプ委員

自分たちが楽しむイベントは、自分たちで企画して楽しもう! そんな想いから、夏のキャンプは子どもたちが中心となって企画をしています。2019 年度は 10 名の枠に対し 32 名の子どもたちが立候補してくれました。全員が委員になることはできないので、キャンプに対するアツい意気込みを語り、CFA の子どもたち全員で誰になってほしいか投票を行いました。

激戦をくぐりぬけたキャンプ委員たちは、川遊びは何をしようか? キャンプファイヤーの出し物は、、、と決めることがたくさん。普段通っている校舎は別々なので、ZOOM を用いてリモート MTG を重ねました。

キャンプ委員だけで行ったデイキャンプでは火起こしの練習。キャンプ委員全員が火を起こせる状態でキャンプに挑みました。キャンプ当日は、かまどとかまどの間を歩き来しながら活躍するキャンプ委員の姿がみられました。

キャンプで火起こし隊をして、薪を集めたり、ライターを使ったり、新聞紙で火を起こせるようになったことが嬉しかった。自分が火をおこせたことで、みんながご飯を食べられたので、自分のスキルが上がったなおもう。みんなに火起こしのコツを教えられようになりたい!



## 👨‍🌾 アグリーダー活動

館山にある CFA の田んぼ。毎年子どもたちを連れて田植えと稲刈りを行っています。アグリーダーは 3 年生以上の子どもたちから立候補を募り、田植えや稲刈りの見本となったり、下級生をサポートしたり、農機具を運ぶ手伝いをしたりする活動です。館山在住の CFA の農業スタッフの指導と地元の方々のご協力のもと、今年は総勢 19 名のアグリーダーが汗を流しました。お昼ご飯を口にかき込むと、息つく間もなく「行ってきまーす!」と田んぼ目指して駆け出していく姿。みんなとはちょっと違う、一歩踏み込んだ活動ができることが意欲につながっているようです。

あぐりリーダーに今まで経験できなかった稲刈りの方法を学びました。普段できないことをもっと学びたい!



# 2019 年度 決算報告

## *Financial Results for the Fiscal 2019*

科目	金額
1 受取寄附金	
受取寄附金	5,507,529
2 その他収益	
売上高	502
保育料収入	129,978,049
<b>経常利益計</b>	<b>135,486,080</b>
事業費	
①人件費	
給料手当	57,026,023
法定福利費	21,393,782
人件費計	78,419,805
②その他経費	
食材費	5,147,438
福利厚生費	705,064
会議費	111,958
交際費	22,777
旅費交通費	4,565,237
水道光熱費	1,734,375
通信運搬費	920,906
消耗品費	2,869,885
修繕費	32,400
業務委託費	324,000
謝金	626,236
支払手数料	1,429,051
支払寄附金	13,920
新聞図書費	2,960
地代家賃	19,151,090
印刷製本費	145,924

科目	金額
租税公課	1,122,332
保険料	689,634
諸会費	48,000
雑費	-100
採用教育費	2,842,043
外注費	2,010,000
広告宣伝費	65,780
通信費	719,225
車両費	2,843
リース料	42,600
支払報酬料	679,259
寄付金	36,000
イベント費用	5,569,428
その他経費計	51,630,265
事業費計	130,050,070
<b>経常費用計</b>	<b>130,050,070</b>
<b>当期経常増減額</b>	<b>5,436,010</b>
<b>税引前当期正味財産増減額</b>	<b>5,436,010</b>
<b>法人税、住民税及び事業税</b>	<b>793,900</b>
<b>当期正味財産増減額</b>	<b>4,642,110</b>
<b>前期繰越正味財産額</b>	<b>-17,865,529</b>
<b>次期繰越正味財産額</b>	<b>-13,223,419</b>

本年度より奨学制度が開始されたため、それまで年間数十万円ほどだった寄附金が約 550 万円と大きく伸長しました。また、利用家庭も順調に増加しているため、新たに施設を開校する際に融資を受けた借入金も計画通り返済しています。来年度に向けてさらに寄附金を募っていくと共に、災害等の発生時にも持続的に運営できる体制づくりを進めていきたいと考えています。

# 2020年度の取り組み *Initiatives for 2020*



2019年度に始まった奨学制度、一部を寄付でまかなえていますが、まだまだ自腹を切っている割合も高くなっています。本制度をより持続的により多くの方に届けるために、2020年度は寄付の募集に力を入れていきたいと考えています。企業からの寄付だけでなく、市民のみなさまからのマンスリー寄付や単発寄付、そして地域のお店と協力しての「寄付つき商品」の開発など単にお金をいただくのではなく、子どもたちを取り巻くコミュニティを育て、社会で子どもたちを見守っていく地域を体現するような寄付の形を模索していきたいと考えています。

また、「比較評価をしない」ことを大切にしてきたCFAですが、一方で教科教育ではないこどもの学びや育ちってなんだろう？ということをもっと深めていき、子どもたち一人ひとりの学びや成長の目印になっていくような「新アセスメント」を生み出していきたいと考えています。本アセスメントは改良を重ね、CFAの外へも発信していければと考えています。

設立以来、どんな時も「こどもが第一」を貫き通してきました。社会や環境の変化だけでなく、子どもたちや家庭、そしてCFAも変化していくなかでこれからも子どもたちや保護者のみなさん、地域のみなさん、そしてCFAを応援してくれているすべてのみなさんと共に子どもたちにとってよりよい社会を作っていきたいと考えています。

## 1 インターネットを通じて知る

▶各種 SNS で活動の様子やイベント情報を発信しています

ブログ

Facebook

Twitter

Instagram



## 2 お金で支援する

▶支援金は\* こども奨学制度に使用します

### ①都度寄付

必要事項を記入の上、ご送金下さい。

銀行	三菱東京 UFJ 銀行
支店	向島支店 (支店番号: 443)
口座番号	0101118
口座名義	特定非営利活動法人 Chance For All

その他、ホームページ上からクレジットカードでの寄付も可能です。

### ②月々1,000円からのマンスリーサポーター

家庭環境で学童に通えない

こどもを支援するための、  
継続的な支援の仕組みです。

<https://deco-boco.jp/projects/view/17>



## 3 一緒にプロジェクトをつくる

▶ともに進めることで新たな価値が広がります

### 個人の方

#### ボランティアをする

子どもたちと一緒にすごしたり、ご自身の特技など、できることをお持ち下さい。

- ・子どもたちの勉強をみたり、遊び相手になる
- ・夏祭りやキャンプのサポート
- ・音楽、絵画、遊びの講師など

### 法人・団体の方

#### ①一緒に商品開発をする

御社のモノづくりやサービスで社会に貢献しませんか？

#### ②一緒にイベントを開催する

例) 遠足、会社・工場見学

#### ③子どもたちとプログラムを実施

例) STEAM 教育 (製品を使用したプログラム)  
社会問題解決 (子どもと大人でチームを組んで活動)

まずは [info@chance-for-all.org](mailto:info@chance-for-all.org) までご連絡ください

### \* 奨学制度の取り組み

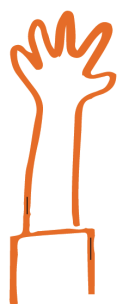
CFAではCFAKidsに通いたくても通えない家庭を対象に奨学制度を導入しております。奨学制度とは、CFAKidsを利用するにあたって必要となる料金をすべて免除する制度です。家庭の経済的な事情により通えない子がいないよう、誰もが通える学童保育をめざして2019年度より制度を開始しました。現在、複数のご家庭に利用いただいています。





あきびこえ

さいこうのみなび



生まれ育った家庭や環境で

その後の人生が左右されない社会の実現



特定非営利活動法人 Chance For All

〒123-0852 東京都足立区関原 3-15-4

E-mail : [info@chance-for-all.org](mailto:info@chance-for-all.org)